

入院治療を経て気づいたこと

B 氏

小学 5 年生のときに強迫性障害になり、治ったと思っていましたが、中学生になりコロナの流行の影響もあり、心も不安定になり食欲がなくなり始めました。太ることの恐怖から毎日給食を残すようになり、高校に入ってから毎日お弁当を捨ててしまい、体重は 35kg を下回ってしまいました。一度通院をやめていた太田病院に再び通院することになりました。小麦を使ったものや揚げ物を拒否し、便秘に悩んでいたため、食物繊維を多く含む食材や低カロリーのものだけを許可食として食べていました。時には便秘に支配され、自分のお金で便秘薬を購入し服用することもありました。とにかくカロリーを消費しなければいけないという考えにおそわれて過度の運動をし、家では座っていることができず、立っていることが多くなり、本当にしたいと思っていたことができない日々を送っていました。外来での通院の際には、体重が減る度に何度も入院を勧められました。院長が私の思いを汲んで何度もチャンスをくださいましたが、症状は良くなり、結局、8 ヶ月後、強制入院になりました。

入院後の最初の一週間はベッド上安静で病室から出ることは許されていませんでした。しかし、立ち上がったたり、歩いたりを繰り返していました。スタッフの方々が何度も注意してくださったにもかかわらず、止めることができず、制限が増えてしまいました。何もすることができず、苦しくて、涙が止まりませんでした。食事は日に日に一食あたりのカロリーが増加し、なかなか決められた時間内に食べきれなかったため、看護師さんが食べさせてくださったり応援してくださったおかげで毎回の食事で完食でき、経管栄養を逃れることができました。

入院から 1 ヶ月くらい経つと、少しずつ正常な考えができるようになり、決められたルールを破ろうとする気持ちがなくなり、早く退院するためにはルールに従うのが一番良いことに気がつきました。食事の時間や食後の待機時間をナースステーションで過ごさせていただいたときに、看護師さんとお話するのが楽しくて、毎日看護師さんと会うのが楽しみになりました。

入院して 2 ヶ月後、病院から登校することが許可され、それと同時にスマホが使えるようになり、さらには強制入院になってから会えていなかった親にも久しぶりに会え、今まで頑張ってきて良かったと思いました。毎日私が学校に通うために、車で送迎してくれた母と父に感謝しています。イレギュラーなタイムスケジュールに対応してくださった病院のスタッフの方々にも、とても感謝しています。ありがとうございました。

学校に通い始めてから、ルールを守れず、行動制限が再びかかるなど、後戻りすることもありましたが、早く退院して部活をやりたいという気持ちが強く、根気強く治療を頑張りました。入院は当初の予定であった 3 ヶ月よりも長くなり、4 ヶ月かかってしまいましたが、無事に退院することができました。

退院後、少しずつできることが増えていき、目標としていた部活の全国大会にも出場することができました。自分でもここまで回復できたことに感動しました。

今では、ほとんど何も考えずに、好きなものを好きなだけ食べられるようになり、友達と外食したり、おやつを食べたりすることを楽しんでます。また、入院治療を経て、自分に自信を持てるようになり、高校生活がより楽しく、充実するようになりました。

現在は、月一回の通院で管理栄養士さんや心理士さんにアドバイスをもらいながら、一度も休まず通学しています。入院してしっかり治療に専念してよかったなと思います。本当にありがとうございました。